て居る③、然るに祕史の此の傳說は元史には全く見えないで、後者は太祖成吉思汗の十世の祖孛端叉兒（ブダンチャール）より筆を起して居る、そして孛端叉兒の生るゝについても、またその母が光明に感じて姙むに至つたといふ扶餘・高句麗・契丹・女眞等に通有なる傳說が祕史にも元史にも見えて居るのである、內藤博士は此の同一種族の開國傳說に、系統を異にした二重の說の有ることに就いて「蒙古種族が原來有せる開國傳說は孛端叉兒の降誕を以て始まるを至當とすべく、かの狼鹿配偶說は、蒙古族が突厥族と接觸せる後に、其の說を襲取して附加したるものなること疑なし」と斷ぜられた、自分は此の見解に從ひ、祕史編纂の當時既にトルコ族の開國傳說が蒙古族の間に入つて居つたものであると認め、從つて祕史に見ゆる他の文化に就いても同樣の性質のものが有り得ると認むる資料に供したいと思ふ。

祕史の年次の附け方に於て人の注意を惹くものは、十二支獸の名稱を用ゐて居ることである、抑も此の方法は能く知られて居る通り、古くからトルコ族の間に行はれて居たことであつて、唐書黠戛斯傳に據ると「謂歲首爲茂④師哀、以三哀爲一時、以十二物紀年、如歲在寅則曰虎年」と見え、突厥でも然りしことは、オルコン碑文の如き動かす可らざる證據があり⑤、回鶻でもまた同樣であつた⑥、さて蒙古でかく十二支獸の名で歲を紀するについて、太宗の時蒙古に使してその風物を見たる彭大雅が、黑韃事略に記して居る所を見ると「其正朔昔用十二支辰之象（如子曰鼠兒年之類）今用六甲輪流（如曰甲子歲正月一日或三十日）皆漢人契丹女眞敎之、若韃之本俗初不理會得、但是草靑則爲一年、新月初生則爲一月、人間（問）（歟）其庚甲若干、則倒指而數幾靑草」といひ、また孟珙が蒙韃備錄に記して居る所によると、その國號年號の條に「去年春珙每見其所行文字猶曰大朝、又稱年號曰兎兒年龍兒年、自去年方改曰庚辰年、今日辛巳年是也、又慕